

2017 年もうんざりするほど切手が

小川義博

師走が近づいてくると同好の方の会報のために年間発行切手を 10 年近く整理してきた。今年もと思うと気が重くなる。切手と思えないものが数多く意欲がわかなくなってきた。今年もどうにか重い腰を上げた。

2017 年切手種類別の発行状況

やはり今年もである、58 件で 590 種類も発行されている。しかも、切手の最大のポイント・目打ちを持たないものが増えている(表 1)。この発行数をどのように判断したらよいか過去にさかのぼって判断したく、50 年間を整理してみた。図 1 の様に 2006 年頃までは、緩やかな増加であったのが 2008 年以降急激な増加がみられる。増加の内容をみると変化がある。増加の一番の因であったふるさと切手が減じるにつれてシリーズ切手と記念切手の増加がそれにも増してみられる。特に、2006 年から 2012 年の 7 年間の記念切手の発行種数は他のどの時期にも見られない多さである。具体的に、2005 年までの 38 年間の平均 9 件、15 種発行が、上記の 7 年は件数はほぼ同じであるが、種類は 74 種と 5 倍になっている、このような記念切手にシリーズ切手の増加が加わり急激な増加になっていたのが 2013 年以降は記念切手が少なくなり、

グリーティング、シリーズ切手の増加傾向が続き今年の発行状況になっていることがわかる。(2016 年は伊勢志摩サミット開催で記念切手が多くなっている)

2017 年発行切手を種類別に整理すると表 2 のようにグリーティング、シリーズ切手が種類、発行枚数の 90% を占め、件数で 75% と日本切手の姿がまったく変わってしまったことを再認識させられるグラフが示される(図 2)。さらに、今年は記念切手の発行が例年にも増して少ない感を受けたが、これも 2000 年頃に大きく減少し現在の状況になっていることが判る。今年発行された民生委員制度を記念する切手、前は 1900 万枚、今回は 600 万である(図 3)。今後、グリーティング、シリーズ切手の発行枚数との差を見ていきたい。

表 2 2017 年発行切手種類別数

切手発行別種	件数	種類	発行枚数(万)
グリーティング切手	21	228	44309
シリーズ切手	22	272	33268
記念切手	6	36	3900
年賀切手	2	6	6400
普通切手	2	3	
毎年発行切手	5	45	5000
総 計	58	590	92877

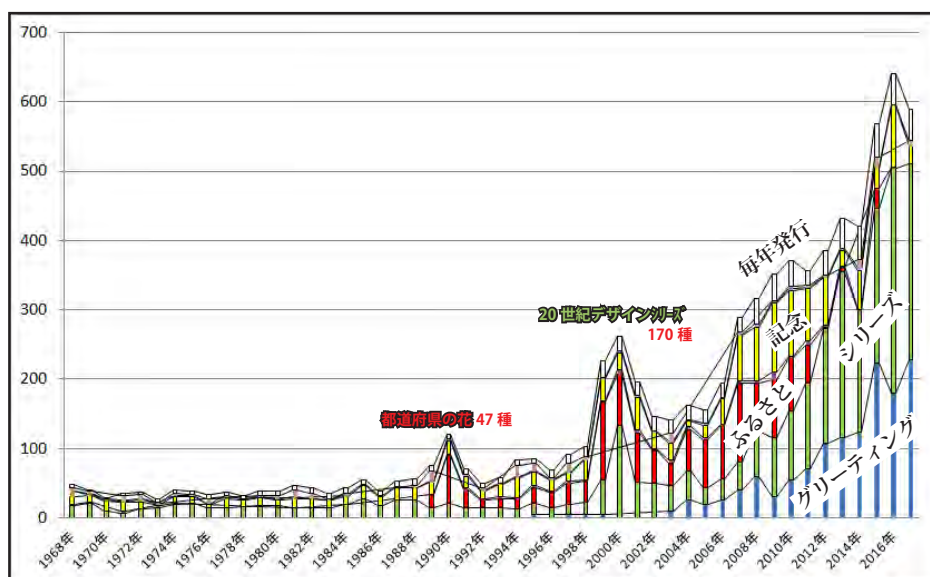


図 1 過去 50 年切手発行種類数の推移

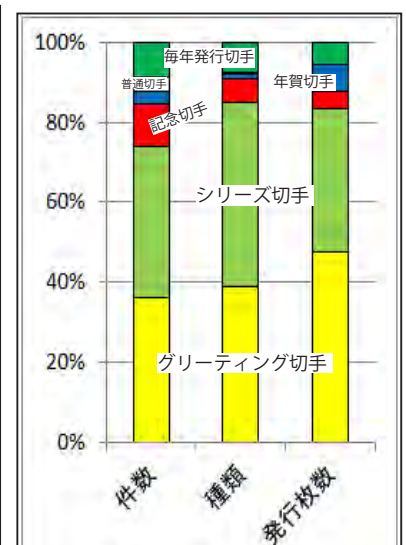


図 2 2017 年発行切手種類別割合

表1 2017年切手発行内容一覧

	切手種類	通 称	種	枚数	切離
1	普通切手	動物・花・国立公園切手	1		目打
2	普通切手	慶弔用切手	2		目打
3	年賀切手	年賀平成 29 年用 (小型シート)	2	0	目打
4	年賀切手	年賀切手平成 30 年用	4	6400	目打
5	記念切手	第 8 回アジア冬季競技大会	5	600	目打
6	記念切手	理化学研究所創立 100 年	5	600	目打
7	記念切手	日デマーク外交関係樹立 150 年	10	900	目打
8	記念切手	民生委員制度創設 100 年	1	600	目打
9	記念切手	ウチズ カブ 国際協会創立 100 年	5	700	目打
10	記念切手	日・モルディブ 外交関係樹立 50 年	10	500	目打
11	毎年発行	2017 切手趣味週間	10	700	目打
12	毎年発行	2017 国土緑化 (富山県)	10	800	目打
13	毎年発行	2017 ふみの日	10	2000	シール
14	毎年発行	第 72 回国民体育大会 (愛媛県)	10	500	目打
15	毎年発行	2017 国際文通週間	5	1000	目打
16	グリ-ティンク	ディズニーキャラクター	20	6000	シール
17	グリ-ティンク	2017 春のグリ-ティンク	8	3200	シール
18	グリ-ティンク	グリ-ティンク 切手 スヌーピー	20	6000	シール
19	グリ-ティンク	グリ-ティンク (シンプル 82 円)	1	3000	シール
20	グリ-ティンク	2017 夏のグリ-ティンク	12	3120	シール
21	グリ-ティンク	グリ-ティンク 日本の絵画	10	1000	シール
22	グリ-ティンク	グリ-ティンク 切手 ハッピーグリ-ティンク	6	3000	シール
23	グリ-ティンク	スーパーマリオ	10	2000	シール
24	グリ-ティンク	リラックマ (2017 グリ-ティンク)	20	2000	シール
25	グリ-ティンク	伝統文化の世界	10	1000	シール
26	グリ-ティンク	ファッション	10	1500	シール
27	グリ-ティンク	秋のグリ-ティンク	13	1300	シール
28	グリ-ティンク	グリ-ティンク 切手「ぼすくまと仲間たち」	20	2000	シール
29	グリ-ティンク	2017 グリ-ティンク (ライフ・花)	8	2400	シール
30	グリ-ティンク	海外グリ-ティンク (差額用)	2	300	目打
31	グリ-ティンク	2017 ハッピーグリ-ティンク	18	3600	シール
32	グリ-ティンク	2017 冬のグリ-ティンク	14	2800	シール
33	シリーズ	日本の建築シリーズ 第 2 集	2	800	目打
34	シリーズ	和の文様シリーズ 第 2 集	20	2000	シール
35	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第 7 集	10	2000	シール
36	シリーズ	星の物語シリーズ 第 5 集	10	3000	シール
37	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第 8 集	10	1600	シール
38	シリーズ	My 旅切手シリーズ 第 2 集	20	1200	シール
39	シリーズ	天然記念物シリーズ 第 2 集	10	800	目打
40	シリーズ	日本の夜景シリーズ 第 3 集	10	1000	目打
41	シリーズ	海のいきものシリーズ 第 1 集	10	3500	シール
42	シリーズ	世界遺産シリーズ <第 10 集>	10	800	目打
43	シリーズ	和の文様シリーズ 第 3 集	10	2000	シール
44	シリーズ	浮世絵シリーズ 第 6 集	10	800	目打
45	シリーズ	伝統色シリーズ 第 1 集	20	2000	シール
46	シリーズ	日本の夜景シリーズ 第 4 集	10	1000	目打
47	シリーズ	鉄道シリーズ 第 5 集	20	1200	目打
48	シリーズ	身近な動物シリーズ 第 4 集	20	2000	シール
49	シリーズ	和の食文化シリーズ 第 3 集	10	1500	シール
50	シリーズ	森の贈りものシリーズ 第 1 集	20	2000	シール
51	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第 9 集	10	2000	目打
52	シリーズ	絵本の世界シリーズ第 1 集	10	2000	シール
53	販売品シリーズ	日本の建築シリーズ第 2 集切手帳	8	32	目打
54	販売品グリ-ティンク	ハート切手のレターセット	6	36	シール
55	販売品シリーズ	星の物語シリーズ 完結編セット	12	36	シール
56	販売品グリ-ティンク	特別切手帳「春夏秋冬鳥図屏風」	6	18	目打
57	販売品グリ-ティンク	My 旅切手レターセット専用シート	7	14	シール
58	販売品グリ-ティンク	レターセットぼすくまと仲間たち	7	21	シール



図3 民生委員制度 50 周年と 100 周年切手
1900 万枚 600 万枚
右切手の文字を判読可能か、検討要

販売品

注意されるのが昨年初めて発行された切手以外の品物と組み合わせて発行される販売品なる収集家には困りものの発行が6件と増えたことである。しかもその中にシリーズ切手完結編セット（星の物語シリーズ 完結編セット）という販売品が発行され、販売品がグリーティング切手だけでなく、シリーズ切手にも、今後、発行されるのかと思われるものが出現した（図4）。発行された6種の販売品、額面の合計が6342円の切手のために15900円が必要であり、加えて、この販売品、確実な入手を考えると通信販売を利用せざるを得ないので合計約20000円を越える出費を強いられることになる。更に、今年も販売品だけに定型外郵便物料金120円切手が4種発行されている。今後、他のグリーティング切手等にまで発行がみられるか注意される。また、販売内容を考え、その販売価格に多少疑問を抱かせるものもあるようだ。

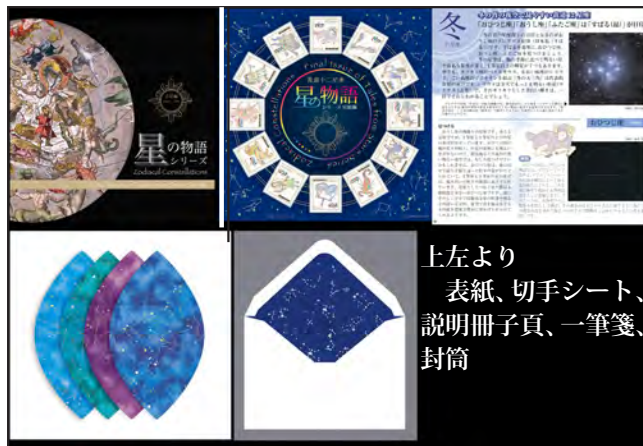


図4 シリーズ切手に出現した販売品
シリーズ切手完結編なる販売品
82円切手12種込みで1500円

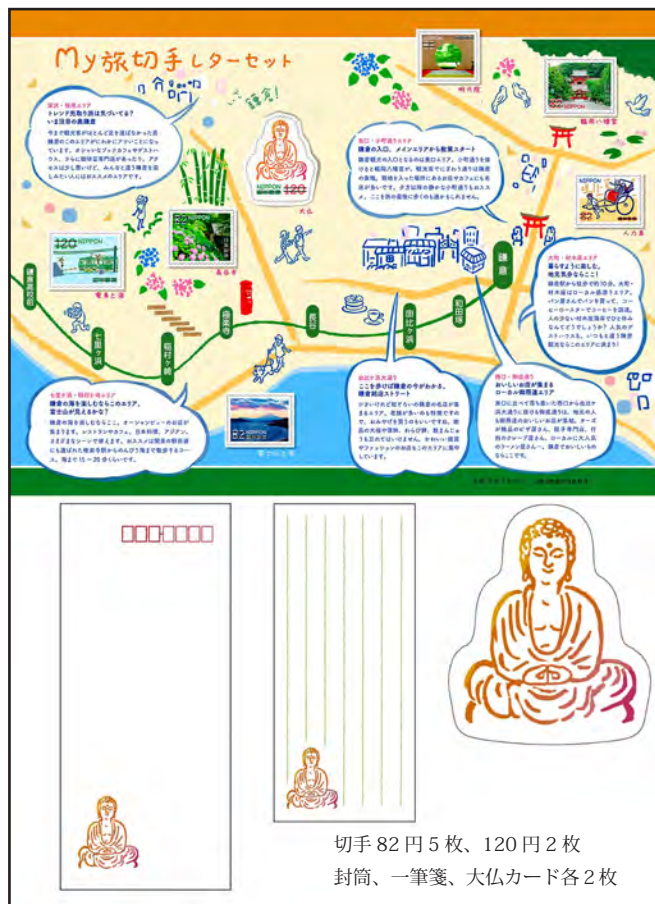


図5 販売品 My旅切手レターセット 鎌倉
切手は計650円、販売価格は倍近い1200円

意匠、デザイン、色彩等

590種の切手にいろいろな意匠が描かれているが絵画関係では46種の切手に絵画を意匠として用いている。浮世絵が15種、屏風絵から16種、そして西洋絵画が4種、日本絵画10種が切手に描かれている。いくつかを取り上げてみる。まず、屏

風絵は狩野永納作「春夏花鳥図屏風（左隻）（サントリー美術館蔵）」から特別切手帳の6種の高額切手に描かれている（図6）。西洋絵画を描いた4種の切手は「世界遺産シリーズ〈第10集〉『ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—』（国立西洋美術館）」の10種に含まれて発行されている。我国では絵画は絵画自体のためではなく絵画を所蔵する美術館のために発行された切手の中で発行されることが多い。今回もその発行の形である。この形の発行は「和服を着たベルギーの少女」児島虎次郎作 大原美術館蔵、「三遊亭円朝像」鍋木清方作 東京国立近代美術館蔵等10種



図7 世界遺産シリーズ 国立西洋美術館切手シートと
ゴッホ「ばら」、 マネ「花の中の子ども」の切手



図6 特別切手帳6種の500円切手狩野永納作「春夏花鳥図屏風（左隻）（サントリー美術館蔵）」

を超えるのであろう。絵画切手の発行のあり方を考えさせるのがグリーティング切手「日本の絵画」の10種の切手である(図8)。他のグリーティングと異なりそれなりの大きさであるのは救われたが、問題はシール式切手である。このように絵画切手がシール切手となると目打切手と異なり単片の切手として扱いにくく、他の切手にも増して郵趣家に困った存在になってしまいがちである。

また、老眼が進む者が疑問を感じる問題が2件



図8 シール式グリーティング切手「日本の絵画」
中島千波作 堀文子作 森田りえ子作
向日葵 流れ行く山の季節 初夏

あった。1件はデザイン関係で気になるのグリーティング切手に非常に似かよったものが多く発行されことである。シートに並んでいても一目で違いが見つけられない、簡単な「まちがいさがし」の問題に使用できそうな感じの切手を単片になった年間600種近い切手の中で区別するのは苦痛である。そのような切手の一部を示すと図9のような切手が思い当たる。

2件目は前ページの今年発行された民生委員制度100周年切手を紙面に掲載するのに不安を持った。白のハトがモノクロ印刷に耐えるのか、そして文字が読めるのか、ということである。特に文字サイズはなぜルーペが必要なサイズかということにはいささか疑問を持った。そこで使用されている文字サイズをPCで推定してみた(図10)。少



図9 一見、異なる切手とは判断しにくい切手の一部



図10 使用文字サイズを検証
●の列が実際の切手の文字
上記切手は原寸1.5倍
前ページ図3が原寸

なくとも4pサイズ以下の文字であった。これが発行目的表示の文字のサイズでは、記念切手の啓蒙、広報等の目的を果してはいないのでないだろうか。

印刷関係

印刷は最近の傾向と変化なく、92%がオフセット印刷、5%がグラビア印刷、例外的に凹版、凸版印刷である。

印刷機関については昨年と同じく海外3社、国内2社の5社(カルトール社、エンスケデ社、フィラ・ポスト、国立印刷局、凸版印刷KK)が印刷しており、その割合も凸版印刷kkが60%を占めている点を含め、昨年と変わらず図11のようなグラフとなる。過去に遡って、切手印刷機関の推移を整理すると図12の様になり、凸版印刷kkの印刷枚数割合の高い年が続いていること、変形切手、シール切手等、切手の多様性と郵政民営化の要因が窺い知れる。また、シール切手の発行が種類で67%、発行

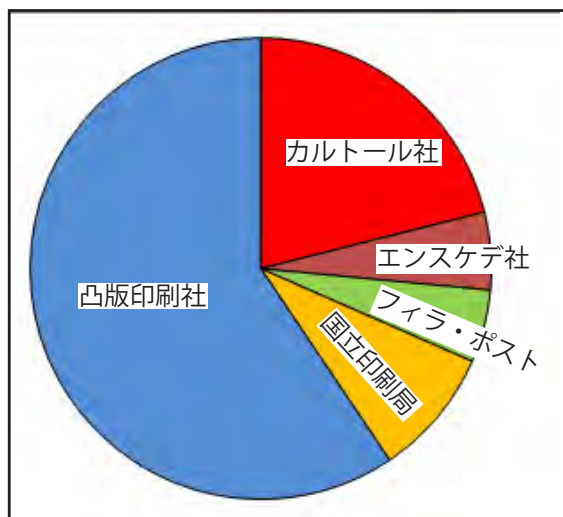


図 11 2017 年切手印刷機関別割合 切手種類数より算出

枚数が 78% になり、今年を我国の切手がシール切手時代に入ったと言える年と考えたい。また、変形切手が販売品の影響か、少し多く全体の 14% になっている。さらに、印刷方式と印刷機関の関係では国立印刷局がオフセットを含め、グラビア、凸版、凹版、すべての方式の印刷をしているが、他の 4 機関はすべてオフセットだけの印刷であることが注意される。加えて、多くが国立印刷局のグラビア印刷で発行されてきた国際文通週間・広重五十三次浮世絵切手が 10 年ぶりにカルトール社のオフセットで印刷されていることが注意され、また、多くがオフセット 6 色で印刷されている中、7 色オフセット（年賀小型シート）、8 色グラビア印刷（図 6）の切手が発



図 13 デザイン孔の開いたシートに 7 色で印刷された年賀シート行された。年賀小型シートは 1953 年からの干支にちなむ郷土玩具の意匠でなく現代風の干支の意匠になり（途中、4 年を除く）、年賀切手としては初の外国製（JOE ENSCHEDE STAMPS）の切手となっている。この点、デザイン孔の技術の点が考慮されたのであろうか。また、このシート 2008 年に次いで日本郵便通販サイトで 1 万枚が販売された。話題の多いシートである。そして、2018 年用年賀切手の印刷も注目される。寄附金付切手は抽選番号を凸版印刷するためか、従来と同じ国立印刷局で印刷され、寄附金なし切手は初めて公でなく民間のフィラ・ポストで印刷されている。

終りに

最後に、一番の懸念はこれら玉石混交の切手を収集するための費用である。切手額面合計 44656 円に、販売品の費用負担約 9500 円、それに通販費用を考えると 6 万円弱の負担となり、日本切手収集の継続を検討をせざるを得ない問題である。

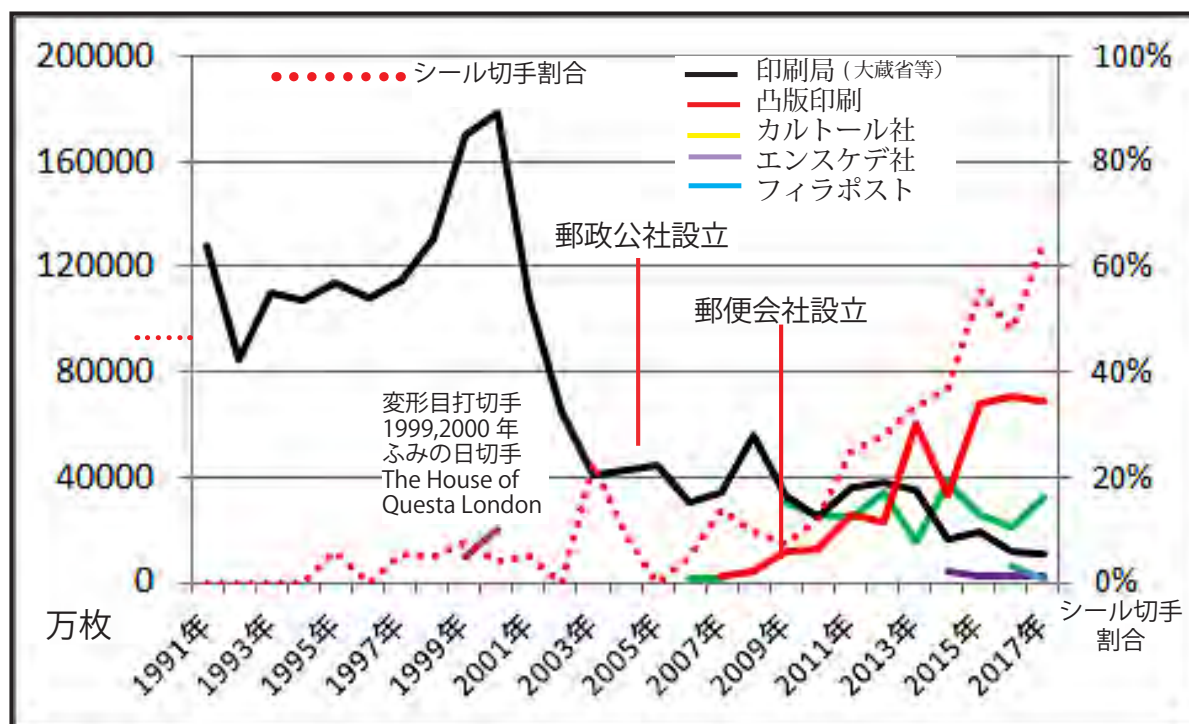


図 12 1990 年以降の切手印刷機関の推移（印刷枚数）